

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2016年7月18日～2016年7月24日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成28年8月2日

在ジョージア大使館

1. 外 政

▼大統領がスロベニアを訪問(18日-19日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領がスロベニアを訪問。ジョージア大統領のスロベニア公式訪問は初。
・スロベニアのパホル大統領、ブルグレズ国会議長、ツェラル首相、ガシュペルシチ・インフラ相、ヤンコヴィチ・リュブリャナ市長らと会談。「ツェ」スロベニア首相は、ジョージアの欧州との統合に対する支持を強調した。
・経済協力に関する合意および外交旅券保持者に対する査証免除に関する合意に署名。

▼国防相の訪米(18日-24日)

・ヒダシェリ国防相が訪米。ワシントンにてザルカリアニ第一外務次官らとともに米・ジョージア戦略的パートナーシップ委員会の会合に出席。米国防省、国務省幹部らと会談。

▼首相がトルコを訪問(19日)

・クヴィリカシヴィリ首相がトルコを訪問。クムシヴィリ経済・持続的発展相、ジャネリゼ外相、セルゲエンコ労働・保健・社会保障相、ダネリア農業相、カシヴィリ矯正相、ギオルガゼ文化・遺跡保護相、アグラシヴィリ環境・天然資源保護相、ジャバリゼ国会外務委員会委員長らが行く。トルコのエルドアン大統領、カフラマン国会議長、ユルドゥルム首相と会談。「ユ」トルコ首相は、前週の軍事クーデターの企ての際ジョージアがトルコ政府に対する支持を表明したことに感謝を述べた。
・「ク」首相は「ユ」トルコ首相らとともにジョージア・トルコ・ハイレベル戦略的協力評議会の第一回会合に出席。会議では貿易・経済関係が主な議題となった。ジョージア側は、市場への更なるアクセスの保障およびジョージアからトルコへの輸出を促進すべく二国間の自由貿易協定をよりバランスのとれたものにするよう強調。会談後、「ユ」トルコ首相は、トルコ側は自由貿易協定の修正の用意があると述べた。

・「ジャ」外相はチャヴショール・トルコ外相と会談。二国間協力、国際機関における協調、地域情勢などについて議論。

▼ラヴロフ露外相の発言(22日)

・ラヴロフ露外相は、露年次青年フォーラムで、ジョージアとの外交関係の再開の可能性について尋ねられ、「二国間関係には肯定的な動きがあり、より常識が感じられるようになった」「外交関係の再開にはジョージア側がイニシアチブをとることが必要だ」と述べた。
・発言に対し、23日、アバシゼ対露関係首相特別代表は、アブハジアヤツヒンヴァリ地域(南オセチア)に関する

最も難しい問題について進展がないため、「ロシアとの外交関係の再開は現時点では考えられない」と述べた。

▼イランの通信・情報技術相がジョージアを訪問(22日)

・ヴァエズィ・イラン通信・情報技術相がジョージアを訪問し、クムシヴィリ経済・持続的発展相、ジャネリゼ外相らと会談。「ク」経済・持続的発展相との会談では、通信・情報技術分野での両国の協力の展望、その他の地域的なプロジェクトについて議論した。「ヴァ」イラン通信・情報技術相は、イランはジョージアとの経済関係の発展に強い関心があると述べた。

2. 内 政

▼選挙区の区割りの変更に関する憲法裁判所の判断(20日)

・2015年12月に国会が承認した選挙区の区割りの変更に関し、野党に不利になるよう恣意的な区割りが行なわれたとして、統一国民運動の議員が憲法裁判所の判断を求めて提訴していた件について、憲法裁判所は問題が認められないとして訴えを却下。

・原告は、改正された選挙法が73の小選挙区のうち30選挙区の区割りを中央選挙委員会が決定すると規定したことについても、恣意的な区割りが行なわれる可能性があるとして憲法裁判所の判断を求めていた。これについては裁判官の判断が割れたが、訴えの受理に必要な6名の裁判官の支持は得られず、同じく却下された。

▼新国防相に関する首相の発言(21日)

・メディアで、ヒダシェリ国防相に代わる新国防相の候補者として、セシアシヴィリ国会国防委員会委員長およびカシヴィリ矯正相らの名前が挙げられたことについて、クヴィリカシヴィリ首相は、複数の候補者との協議を行なっているとしつつ、候補者に「セ」国会国防委員会委員長、「カ」矯正相は含まれていないと述べた。

▼憲法裁判所長官の発言(21日)

・バプアシヴィリ憲法裁判所長官は、憲法裁判所の9名の裁判官の一部が、重要な案件に関して、政府に都合のよい判決を下したり、結審を引き延ばすよう圧力や脅迫を受けていると発言。

・クヴィリカシヴィリ首相は、発言を受け、「パ」憲法裁判所長官と電話で話したとして、直ちに検察に全ての情報を伝えるよう求めたと述べた。検察は、「パ」憲法裁判所長官から情報が提供され次第、適切に対処するとのコメントを発表。

3. 経 済

▼ジョージア・中国自由貿易協定に関する第3回協議 (18日―22日)

・トビリシにてジョージア・中国間の自由貿易協定の締結に向けた第3回目の協議が行なわれた。

▼2016年1月～6月の貿易統計(19日)

・国家統計局が2016年1月～6月の貿易統計を発表。貿易額5,705百万ドル(前年同期比20%増)、輸出額948百万ドル(同12%減)、輸入額4,757百万ドル(同30%増)。

・貿易相手国の内訳はEU諸国24%、CIS諸国20%。国別では貿易額の多い順にカナダ、トルコ、ロシア、中国、アゼルバイジャン、アイルランド、ドイツ、ウクライナ、アルメニア、イタリア。

・日本との貿易高は輸出額452.1千ドル、輸入額76,659.3千ドル。

▼2016年6月の直接外国送金(20日)

・国立銀行が2016年1月～6月の直接外国送金額を発表。外国からジョージアへの送金額は530.18百万ドル(前年同期比1.5%減)。送金元の国別では、ロシア173.4百万ド

ル(同15.1%減)、ギリシャ62.8百万ドル(同24%減)、イタリア59.6百万ドル(同12.7%増)、米国56.7百万ドル(20%増)、トルコ39.2百万ドル(同9.2%増)、イスラエル25.8百万ドル(同80.8%増)、スペイン15.13百万ドル(同23%増)、ドイツ14.9百万ドル(同23.8%増)、ウクライナ9.5百万ドル(同4.8%減)。

▼EBRDの融資(20日)

・EBRDによる「ルスタヴィ窒素」社に対する1億5500万ドルの融資に関する署名式が行なわれ、クヴィリカシヴィリ首相も出席。「ク」首相は、「これは輸出を意識したプロジェクトであり、通貨ラリの強化の観点からも非常に重要である」と挨拶した。融資はアンモニアの生産ラインの修復および現代化のために使用され、それにより消費エネルギーが約30%少なくなる見込み。

・「ク」首相は記者に対し、黒海沿岸でアンモニアの輸出ターミナルの建設の計画が進められていると述べた。